

# 第32回会員の皆様へ（重要事項）

## 国技館すみだ第九を歌う会

ご入会に際し、重要な事項（会の発足、練習・本番の心得、注意事項等）を記載しておりますので、お申込み前に予めご確認くださいませようお願いします。

### 1 会の発足について

- ・1984年4月24日、翌年に竣工する両国国技館の歓迎祝賀行事として、ベートーヴェンの第九を5000人で大合唱するために発足し、その時の演奏の感動と喜びをより多くの人々に伝え広めるために、歌い続けることとなりました。
- ・この第九をきっかけに1987年から墨田区は「音楽都市づくり」を推進しています。
- ・ベートーヴェンは「第九」の中で人類の自由、平等、友愛、平和を提言しています。

### 2 会の運営

- ・会の財政は会員の皆様の会費、墨田区および企業・団体・個人の方々による賛助金等の収入によって成り立っています。

### 3 練習について

- ・会員証と楽譜を必ずご持参の上、出来る限り練習にご参加ください。  
遅れる場合でも、練習に継続して参加する習慣を身につけてください。
- ・練習には筆記用具を持参し、指導者のアドバイス・注意を楽譜にメモしてください。  
そして必ず復習してください。これが上達の秘訣です。
- ・各練習会場入口の受付には受付係のスタッフがおりますので、何でもご相談ください。

### 4 ドイツ語

- ・指定楽譜の末尾に発音記号、フリガナを掲載してありますが、正確な発音は指導者や練習用CDの発音で憶えるようにしてください。
- ・また、ドイツ語の歌詞全体は、楽譜の9ページから35ページまでをマスターすると、その後はほぼ同じ言葉の繰り返しとなります。
- ・各パート別の練習用CDも活用してください。

### 5 発声について

- ・第九は4つのパートとも、高音域がたくさんありますので、練習前の発声練習等を十分に活用してください。
- ・練習中は、指導者の指示に従って正しい姿勢を保つよう心がけてください。

### 6 練習の始めと終わりに

- ・指揮者または指導者の入場及び退場時には、起立して敬意を表してください。

## 7 本番について【重要】

- ・本番は全員が楽譜を持たず、暗譜で歌います。
- ・5000人が声を合わせるために、指揮者をよく見て歌ってください。
- ・第一楽章から第三楽章までは、オーケストラ演奏のみですので、合唱団は着席して待機します。その後、第四楽章が始まって約5分後に、バリトンのソリストと一緒に起立して歌います。以降は、曲終了までの約20分間を立ったままで歌い続けます。  
(参考) 第1楽章～第3楽章＝約45分、第4楽章＝約25分
- ・原則として、座席はお申込み先着順に指定をします。(参加費のお支払が確認できた方に限ります。)
- ・本番当日は、「昼食のお弁当、お茶(ペットボトル)、プログラム」を合唱団の皆様へ配布します。
- ・国技館は施設の構造上、暖房が届きにくく、お席によっては寒さが厳しい場合があります。各自で防寒対策をお願いいたします。
- ・国技館の2階席階段は、一般的な音楽ホールと異なり一段が高いため、足元にご注意ください。
- ・本番出演時の服装は下記のとおり指定があります。 ※リハーサル後の着替えでも可
  - 男声＝黒系統の背広上下、黒の蝶ネクタイ、白のワイシャツ、黒靴
  - 女声＝白のブラウス、黒系統のロングスカート、黒靴(※マス席は靴を脱ぎます)
- ・下記のリハーサルは両日とも必ずご参加ください。  
本番前日(土曜 午後) オーケストラ、ソリストも参加するリハーサル練習  
本番当日(日曜 午前) 全員でのゲネプロ(最終総合練習)
- ・「第九」終了後は、墨田区の愛唱歌である「花」をソリストの方々とともに全員で合唱します。

## 8 出演者としてのマナーについて

- ・本番コンサートは有料演奏会です。合唱団員は、出演者としての自覚を持ち、会場内スタッフの指示に従って、マナーを守るようお願いいたします。

## 9 解団式

- ・解団式の実施とともに、今年度の「国技館すみだ第九を歌う会合唱団」が解散されます。
- ・本番が終了次第、解団式を開始いたしますので、必ずご参加ください。
- ・解団式では会長・指揮者・独唱者等の挨拶、乾杯、都道府県ごとに合唱団員の紹介を行います。
- ・解団式の終了後は、解散・退館となります。

## 10 ベートーヴェンと第九について

- ・生地 ポン市(ドイツ連邦共和国・EU加盟国)
- ・生誕日 1770年(明和7年)12月16日(洗礼17日)
- ・終焉 1827年(文政10年)3月26日 ウィーン市自宅(シュヴァルツシュパニアーハウス)
- ・第九作曲年 1822年～24年(ウィーン、バーデン)
- ・世界初演 1824年(文政7年)5月7日(ウィーン市ケルトナートーア劇場)、同年2月中旬完成。  
指揮：ウムラウフ、ベートーヴェン 独唱：K・ウンガー、H・ゾンタークほか
- ・日本初演 1918年(大正7年)6月1日 徳島県の板東捕虜収容所でドイツ軍捕虜80人の男性により演奏  
指揮：ヘルマン・ハンゼン、管弦楽：徳島オーケストラ
- ・日本人初演奏 1924年(大正13年)11月29日 東京音楽学校(現 東京芸術大学)第48回定期演奏会  
指揮：グスタフ・クローン(東京音楽学校助教授)  
独唱：長坂良子、曾我部静子、沢崎定之、船橋栄吉  
管弦楽：東京音楽学校管弦楽団 合唱：東京音楽学校学生
- ・国技館初演 1985年(昭和60年)2月17日  
指揮：石丸寛 独唱：中沢桂、伊原直子、五十嵐喜芳、栗山義信  
管弦楽：東京交響楽団 合唱指揮：辻正行 合唱：国技館すみだ第九を歌う会合唱団